



勢陽雜記

三重郡
桑名郡

貞辨郡

朝明郡

特別
ル 4
4912
1



流俗より流ひゆる程をいづく文岐前後不同にして
慎カクシなるを又のミナリケル

一 伊弉諾玉と伊弉牟玉の神を天皇より初りゆるを
伊弉諾玉と伊弉牟玉の神を天皇より初りゆるを
伊弉諾玉と伊弉牟玉の神を天皇より初りゆるを

天目別命アマノメワケノミコト此村比也此流ひゆる

釋日本記伊弉國風土記曰夫伊弉國有神武天皇
勅詔天目別命曰國有天津之方宜平其國卯
賜標釵天目別命奉勅東入數百里其邑有神名曰伊弉
津彦天目別命問之汝國獻於天孫哉答曰吾覓此

國居住日久不敢聞命矣天目別命發兵欲戮其神于
時畏伏答曰吾國悉獻於天孫吾不敢居矣天目別命
令問之汝之云時何以為驗答云吾以今夜起八風海
水乘波浪將東入此則吾之却由也天目別命令壘
兵窺之北乃中夜大風四起之羽舉波瀾光曜如日陸
國海共朗遂乘波而東至台語之神風伊弉國常世
浪寄國者蓋此謂之也詔曰國宜取國神之名號

伊弉之云

一 凡伊弉玉と伊弉牟玉の神を天皇より初りゆるを
伊弉玉と伊弉牟玉の神を天皇より初りゆるを
伊弉玉と伊弉牟玉の神を天皇より初りゆるを

風より吹くは北に南北二十余里東西七十里或
十里十町と申す南の方東西廣く西北の方
峯ありと國境と申す板海道の川より大なる
國境は遠くともく板海道 板海道の川より大なる
單邊道の行船大和紀伊志摩の國より津と
ちし海よりむらひの屋敷の河までありし
し七八九里ある海道の事なりしに大倉
東海南海北の道は船の往來ありしに
高貴運送の舟船の往來の便をもたえし
出入の便なる能ふの土地なりしに

一 萬葉海原地出炭地ありしに高貴運送の舟船ありしに

おのり

一 貴臣吉公天正文禄年中に法小捨免し給ふ
時南の山におりし給ふと申す一柳古田史
行舟の守新田東玉齋服部京女正梅の号なり
等小波保身又録之年中小捨地ありしに一玉の号あり
六分三百石名六十八年八合也村敷一千半九村也
の改め大井宮領守村に上古より守護不入の地
て代々の例よりし給ふと申す除給ぬと申すは眞
粉と申すの地より守村ありしに大やみ藝

性より肥やましく水旱凡乃損領前より山あり
とさしふる。たしとさむ武井老子用とて一入物奉れ
山と採年一六つ地ありて

一年乃得年

石ノ之拾分七十八百八分歟

儀ノ八拾九分百千言武徳年中の儀也

此價金子武拾貳分二千六百拾分也

美令武拾貳分二千六百拾分也

白紙さき四百七十言武拾九分書入拾分也

一 社佛園の古又西園地かたしとて水旱採り

家より玉たとあり一 只園信一 地と治あり集傳也

兵分社園たれと宮子武右と地と地と

ちくつこの地と地と地と社佛傳序す

況と位母の地と地と地と地と地と

只表(弟ま)地と地と地と地と地と

地と地と地と地と地と地と地と

一 古分母より地と地と地と地と地と

方とも地と地と地と地と地と地と

とて書我れ地と地と地と地と地と

地と地と地と地と地と地と地と

乃たらひまをこむらひ集結し或は日向國
ニ于て新しれ所小冊並進禮と云ふ一書を
とくし巡れ舟と云ふ書に記す

一 上古戰場も古戦同く人々を主たり是利する
氏公より若杉院義晴公よりハ世教法を利はる
り白國とのこと大合戦中身をもとより次信忠記大國
記書記す義輝義昭乃代よむは法皇大よみん
苗圃舊勢乃動まら悲断絶し侍らもやせ此有
二言初より後氏法皇初小國や古儀初よりある
一志初より小島氏此里初代お續くこと所を智此

他諸をいさたひをりり一織田信長公は
多勢向し給ひ小幡勢と相捕永禄十一年
多氣北國日乃坊院一入ありて此を記
しりりしと和隆と云りて信長の治界信長
國日乃妻とせし天正四年の事たり
と國司と云し給ふ信長國司乃舎弟身親義を
起し其新しき戦史あり也や一やりて道
行はふ天正十年北畠信忠と京師を討進ぬ
同十一年より信孝等國院一師あり信雄と秀吉
公と一師あり乃下既洋折よ乃ひ合戦山陣と云

果志く信孝乃方子さげく甘雷然に或は
或は信此身をさうくりり同十二年に又信
雄と勇吉と遠者た玉は洋指は排戦し同
十月十日和勝さうりぬかく歌と後述りよら
君信義と捨明友信とさうりさひうはさうりて
澄す余れうらう波字の減七しと跡さうり
源清らうりのさうりかとも五年名はう女神送礼
乃時方と所と我ま方是等とちういぬさうり
とさうり信此のさうりかうり白濁年すめと
さうりさうりかまらうりたうりもあうり信此とさうり

る人はさうりく他は他はれ御とさうり我は後り自合れ
ま切とがさうりもさうり又式人さうりうりさうりさうり
人さうりうりさうり見類肩偏はれ私とさうりさうり
さうり初はさうりうりうりさうりひささうりさうり
けゆりまさんともさうりおほはさうりうりさうりはははははははははは
招とさうりさうりさうりれさうり座説をさうりさうりさうり
さうりさうりさうりさうり書記さうりねはははははははははは
さうりさうり

明二曆二丙申

郡部目録

桑名 八十三村 外小村三

貞辨 百村

朝明 五十六村 内ニテ村ハ 一所、西村マアリ

三重 八十九村 内ニテ村ハ 一所、西村、外村五

河曲 三十村 内ニテ村ハ 一所、西村、外村一

鈴鹿 八十七村 内ニテ村ハ 一所、西村、外村五

奄藝 五十七村 外小村四

安濃 八十五村 外小村十五

壹志 百三十三村 外小村七十八

飯高 百十二村 外小村四

飯野 四十一村 外小村三

多氣 百三十三村 内ニテ村一所、西村マアリ、外小村八

度會 百十八村 外小村二十二

合十三郡

合千百九十四村 但神領内ニテ村ニ所、西村宛是

外小村百七十四村 亦地高者之無里八分村

古來錦嶋御座嶋ヲ入テ十五郡ト云此二郡不

知右所和歌集名寄小今志麻子國下有之各所者

浮城不入今也 此等所為所ニ郡之古ハ浮城

此内ふくむる。後、志摩電氣石新とを
おの度々那内古無記と又那境之時代
少ありかりしゆり。延喜式源順和名かゝる考ふ小
今れ神社又、村の名初乃村と今世以て魚
く相違たはり

一 國惣るり拾九萬六千二百三拾四石貳斗肆升八合

但外、神領四拾ヶ村古來不知其高

四拾之萬四千七百六拾四石七斗六升之各 田之方

拾五之萬九千二百九石九斗貳升之各 高之方

貳千又百石 葎場方

外六之萬貳千六百六拾石五斗二升之各 畝新田

源順倭名之信濃國守并其鈴鹿郡之江上田

二百廿三田之萬八千七百六拾石五斗五升

正公名四之萬二千六百八拾石八斗十升新田八拾石

右郡内領地目録

之貳萬四千九百拾石九斗九升之各 公方領

外、之二十三萬八千七百六拾石 新田

佛代官 山口佐馬守

内右志麻守

佐野千十郎

川合助左衛門

石拾七石七斗七升六勺

寺屯一石

神戶町

石拾七石七斗七升六勺

石三千九百七拾七石六斗六勺

外

石拾七

石二千八百七拾七石六斗九勺

石拾七石七斗七升六勺

外石百七拾七石七斗七升六勺

石拾七石七斗七升六勺

外石百七拾七石七斗七升六勺

石五千七百七拾七石六斗八勺

外石百七拾七石七斗七升六勺

石五千七百七拾七石六斗八勺

外石百七拾七石七斗七升六勺

石五千七百七拾七石六斗八勺

外石百七拾七石七斗七升六勺

石五千七百七拾七石六斗八勺

石川橋麻守御代付

石九千九百七拾七石六斗七升六勺

外十一石二斗六年奉答新田

二石二千五百石

備前久遠守

二石二千石

石川大隅守小幡

外四十二石八斗七年奉答新田

一石二千石

三重郡豐後村

丑朔平右衛門

一石二百石

關東大神宮領

一石二百石八斗九年奉答新田

上部越中守

一石四百廿九石二斗六升九合
此石名氣勢村內
注原郡若狹村內 光院守

一石四百石

多氣郡相村內

春正守 白身

一石三百石

多氣郡相村內

宗承守 白身

一石二百石

當院部一身田村內寺遊等 一身田村

一石百石

此石名氣勢村內
一志於中村之內

大寶院 供觀音堂

一石百石

度會郡神村內

朝熊嶽領

一石六十石

度會郡田宮寺村內 田宮寺

一石三十石

當院部白子泥村內 觀音寺

一石十石

鈴鹿郡久野村內

大神宮領

一石六石三斗七升一合
此石名氣勢村內
瑞光寺 關地院 上

山田合源寺

多氣郡同田村

關東大神宮領

戰場之覺以年來次第記之戰場隨其郡者也

多氣國司由來

山田合戰事

長野家由來分細野事

関家由來事

神戶家由來事

千草城攻事

柿城攻事

戸本葉野合戰事

聖水路島山合戰分長野越前事

田丸合戰事

齋宮惡黨事

塩濱合戰事

神戶西上庄合戰事

赤堀合戰事

信長初長嶋發

高尾城捕卷事

信長与神戶藏人程事

安濃城攻分長野具藤追出事

細野攻長野分信兼移別保上野城事

度會

多氣

三重

河曲

三重

桑名

河曲

河曲

安濃

安濃

織田掃部助移洋城今德山城攻事

北畠具教大河内龍城事

木造家由來源淨院柘植進逆事

阿攻城攻事

船江夜合戰事

大河内合戰事

曾原合戰事

高岩城主山路彈正神戶隱居事

長嶋一揆退治全討死事

関盛信劫氣事

安濃

飯高

一志

一志

飯高

飯高

一志

河曲

柔右

鈴鹿

長嶋合戰林新高討死事

長嶋所々退治之事

長嶋合戰津田大隅守討死益任關東官領事

澁川林城攻事

尾本下野守給峯城事

信雄移田丸城事

度會邦長丸城攻事

北畠一族於三瀨田九生害事

見親還俗籠木林城事

織田掃部助於田丸殺害事

柔右

柔右

柔右

奄藝

鈴鹿

度會

度會

度會

飯高

度會

三瀬谷一揆事

小倭一揆蜂起事

御山獄城攻事

河俣谷所城攻具親洛城家本戰死事

信雄知伊賀發向信榎討死事

田丸城燒亡事

信雄卿築松賀邊城事

信孝神戶楊殿守白子氏狂哥事

雲林院家流浪事

信兼安濃城攻事

松賀寫舞樂高野聖討死之事

信雄知伊賀國退治事

信孝公從神戶上洛討光秀事

信雄知從松賀嶋上洛伊州一揆蜂起

國府家臣誅伐事

信孝公逆意北伊勢所今籠城事

具親五箇竹條山籠城事

信雄卿神戶城給林五郎事

神戶五郎龜室衣發向事

關家督定付岩間逆心事

度會

一志

一志

飯田

一志

度會

一志

河曲

安濃

安濃

一志

一志

河曲

一志

籠

河曲

多氣

河曲

籠

籠

秀吉筑州發向丹龜山落城事
率城攻事

長嶋落城付長直島城天野周防守給事

厚野城土方河内守給事

上庄喧嘩事

秀吉公林城攻事

信雄卿於長嶋討三臣事

津川謙入松賀嶋等電城事

秀吉公率城攻事

神子与五郎没落事情天之事

鈴鹿

鈴鹿

素名

三重

一志

奄藝

素名

一志

鈴鹿

河曲

本由船江籠城付盜出人質事

瀧川從本造尾州中入事

本造具康戶本籠城事

氏卿小倭發向事

信雄卿与秀吉公於大田川原和陸事

世村與長野喧嘩付白山權現回祿事

富田信濃守津城籠居事

松坂城由來

古田兵部少輔防大和野事

稻兼藏人攻中嶋城事

飯高

一志

一志

一志

素名

一志

實濃

飯高

飯高

度會

兼西込上
兼柿塚
兼嘉例

兼下深谷部
兼上深谷部
兼溝野
亦御衣野

兼中猪飼
兼北猪飼
兼力尾

兼下野代
兼今嶋
兼大鳥居

兼中津
兼谷江
兼南ノ江

兼下耽江
兼上耽江
兼香取

兼戸津
兼小山
兼多度

兼油井
兼石垣
兼上ノ江

兼福永
兼東福永
兼西平賀

兼古敷
兼東平賀
兼江内

兼油嶋新田
兼金廻
是長嶋之内
兼大嶋

長助江
長松ヶ嶋
長上ノ町

長俣本
長殿名
長三ノ家

長小嶋
長垣
長高座

長中川
長西川
長杉江

長松本
長上坂平
長下坂平

長千倉
長泥臘
長平方

長北島
長遠瀬
今西朝上
長新所

長櫓
長八十三村
外小村三

長高四萬三千六百七十二石四斗一合

三萬二千二百七十六石九斗一升七合

田方

八千七百九十五石二斗二升四合

畠方

二千五百石

葭場方

外高一萬九千二百六石七斗一升一合

新田

一 沖舟村の濃兵衛村、港道なり

一 菅沼村の相舟なり、庄列なり、一里船なり

一 菅沼村の庄列、庄列、菅沼村なり

一 同庄列、相舟の海、七里、菅沼村なり、大川船なり

此の如く、相舟の海、七里、菅沼村なり、大川船なり

此の如く、相舟の海、七里、菅沼村なり、大川船なり

一 舟、此の如く、相舟の海、七里、菅沼村なり、大川船なり

此の如く、相舟の海、七里、菅沼村なり、大川船なり

人之十人、此の如く、相舟の海、七里、菅沼村なり、大川船なり

一 舟、此の如く、相舟の海、七里、菅沼村なり、大川船なり

一 舟、此の如く、相舟の海、七里、菅沼村なり、大川船なり

牛、此の如く、相舟の海、七里、菅沼村なり、大川船なり

土地、此の如く、相舟の海、七里、菅沼村なり、大川船なり

版、此の如く、相舟の海、七里、菅沼村なり、大川船なり

世、此の如く、相舟の海、七里、菅沼村なり、大川船なり

一 舟、此の如く、相舟の海、七里、菅沼村なり、大川船なり

池くきり〜ゆり日本記續日本記と云ゆり〜本と御家

記しゆり

曾聞^ラ二帝此停車

憾^{ウラミ}在吾邦米見書

今問^ニ先蹤人不知

誰^{ナニ}廣^{ツク}風土補^ニ方與^ラ

一春日大明神

素名此市小あり

毎年七月十七日多れあり俗に言ひり〜又八月十八日此
ゆり前十七日試樂と云つは此は社領する百石の方より此
ち〜は社領する石他〜は社領する石と云ふは
は〜社務社領する〜は社領する石と云ふは社領する石
九十一代伏見院此ゆり正徳年中八月十八日御留此乃事

ゆりて常陸の玉麻治り〜は社領する石と云ふは社領する石

ゆりゆり

麻治りゆり麻治りゆりて海島也昔事小治と云ふは

志ゆり〜乃又玉麻治り〜は社領する石と云ふは社領する石

ませまゆり四新と云ひり〜は社領する石と云ふは社領する石

神ゆりゆり龍と云ふ昔事ゆり〜は社領する石と云ふは社領する石

考ゆり大のゆり也本此〜は社領する石と云ふは社領する石

ゆりゆりゆりゆり梅ゆり大武大皇乃ゆり〜は社領する石と云ふは社領する石

六百余年ゆりゆりゆりゆり考ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

乃鹿よきくもやけ其代 何の時神祠諫く曰神本と
いひ名もや神とあつとくあり かしと制しかく七時
寺の中江清中島とあるは是九龍殿代授り廿夜目連
光と放清中島とあるは是と山伏不取し清中島と
五穀十後法水とく中江清中島とあるは是と成
七後中平法流とあるは是と長尾と云若彼か
北江と新田より江を新田極後し 何故又法水出放光
多後不花のし新田又川系と成何城中乃鹿と
いふ程なりしと又志を成ふなりしとや一日連八分及
何故に社と云

一 寺名 法雲寺 本寺千手観音住持巡禮所 十三番

目と名と物一のうと云

寺よ 寺と名と物一のうと云

一 式部 東方村 廣寶山 妙見寺 と云

寺あり城を中守之繩北祈禱所と云山伏
何故とあるは其の西麓小清泉水あり土人傳く云住僧
和名式部家あり其故より故より式部家と名くと云
三宅正聖先生所し其の詩文ありたは記を

式部 泉唱和詩

同 遊式部泉

白貴

彩石^{タミ}畫成^{サス}式部泉松^{サシ}簪^ラ帶^ラ貌^ラ容^ラ濃^ラ辟^ラ開^ラ何^ラ暇^ラ巨^ラ靈^ラ
午^ラ疏^ラ鼓^ラ金^ラ直^ラ辛^ラ大^ラ禹^ラ幾^ラ曲^ラ武^ラ夷^ラ空^ラ谷^ラ画^ラ屣^ラ風^ラ沂^ラ水^ラ舞^ラ雲^ラ
風^ラ先生^ラ獨^ラ嘆^ラ在^ラ川^ラ上^ラ句^ラ引^ラ重^ラ期^ラ六^ラ七^ラ童^ラ

遊式部泉用白賁韻二首

蒼菴

物異名同式部泉人容孰若水容濃
我^ウ化^ウ怡^ウ石^ウ聊^ウ添^ウ趣^ウ
拾^ラ芥^ラ浚^ラ澁^ラ且^ラ討^ラ功^ラ清^ラ樾^ラ蔭^ラ時^ラ無^ラ畏^ラ目^ラ寒^ラ流^ラ編^ラ音^ラ處^ラ有^ラ薰^ラ風^ラ
朝^ラ嬉^ラ宿^ラ入^ラ三^ラ昧^ラ從^ラ道^ラ老^ラ年^ラ心^ラ尚^ラ童^ラ

西子湖和或部泉晴粧雨林淡仍濃
洎^ケ流^シ那^ナ塞^セ流^リ河^カ孰^ク
九^ニ仗^ニ已^ニ成^ニ一^ニ籌^ニ功^ニ空^ニ水^ニ澄^ニ鮮^ニ逐^ニ霽^ニ霽^ニ月^ニ春^ニ陽^ニ照^ニ蕩^ニ漾^ニ光^ニ風^ニ
自^ラ遊^ラ上^ラ古^ラ天^ラ直^ラ境^ラ澤^ラ不^ラ涸^ラ兮^ラ山^ラ不^ラ童^ラ

重遊式部泉詩并序

乘石西距治所一許里有山自妙見便菩提薩埵之所堅坐
也其西林麓之水曰式部泉不知何代誰人命之也或曰如
泉式部嘗過于此故號或曰斯水也其色金碧澄瑩味輕
軟其養有德有容可飲可抗蓋式部有六人中若仙也
才貌之好可想見矣且以泉字標其名要固北竝而稱之
復未^ラ知^ラ孰^ラ是^ラ余^ラ愛^ラ其^ラ景^ラ象^ラ假^ラ日^ラ出^ラ遊^ラ以^ラ消^ラ吾^ラ憂^ラ者
數^ラ矣^ラ小^ラ山^ラ怡^ラ石^ラ防^ラ雨^ラ後^ラ隕^ラ細^ラ流^ラ浚^ラ溝^ラ培^ラ風^ラ前^ラ即^ラ音^ラ泥^ラ接^ラ際^ラ
而^ラ溝^ラ砂^ラ出^ラ榛^ラ茅^ラ誅^ラ而^ラ嘉^ラ花^ラ列^ラ誠^ラ亦^ラ一^ラ果^ラ境^ラ也^ラ其^ラ地^ラ既^ラ近^ラ而^ラ又^ラ能^ラ
逃^ラ則^ラ無^ラ復^ラ市^ラ塵^ラ氣^ラ宜^ラ風^ラ塵^ラ之^ラ避^ラ近^ラ則^ラ乘^ラ且^ラ恒^ラ至^ラ有^ラ

急且取歸途昂異ナリ彼幽シ即チ遠而近ト必宜者也ト豈復有所謂勝地不常ト或盛キ或難キ再之慨哉ト一目拉テ白貴ト文人ト經由テ徜徉シ宗朝ト暨昏ト文人ト迺唱一詠ト以字性情ト余亦倚リ響ト而和之ト今日同心十數人又來遊處ト乃叙其懷抱ト所一歷ト之何不ト賦ト或有盤桓ト蒼崕ト古壁之際清嘯ト天風ト者或有ト下溪涉澗ト弄墨ト花擬細草ト者或有ト踞怪石ト而詠招隱詩ト撫疎松ト以諷閑居賦ト者或有ト攀松ト徐步ト討長因訪平初ト與田丈說與野老談者ト或有ト倚賴山閣ト擘頰靜觀ト孤雲起滅者ト或有ト欲窮滄海眼ト更上二層巔者ト或有ト快然負涼入黑ト紺鄉ト跋ト華ト登ト國者ト或有ト拈坐ト蒼苔ト矚目ト搖膝ト苦吟ト沉思ト者ト或行却返坐ト又起ト或散ト且聚然語其覽物ト之所得ト雖或有ト淺深ト而皆至ト獲其意之所適ト則一也ト異乎彼同ト反而不同ト遊而不同ト意也ト豈復有所謂奇趣ト難均ト玄契ト罕遇ト之歎ト哉ト遂就禪房ト而綴ト茗ト開行厨ト而酌酒ト優ト之ト享ト雍ト然ト山靜ト日長ト遊ト楫ト有餘ト力ト重ト用ト前韻ト各賦一章ト既俱集清泉水ト之下ト地華ト掬翠ト類ト而漱ト口ト誠ト採ト諸篇ト吟ト一ト閑ト超ト然ト出俗ト如讀ト赤壁ト前後ト賦ト然ト灑ト神ト似ト誦ト黃庭ト內外ト經ト疑ト天更無ト世覺ト乾坤ト自有ト吾樂ト乎ト此樂也ト異乎彼ト揚日花街ト既ト霄ト柳陌ト醉ト紅ト裾ト而飽ト翠ト袖ト者也ト豈復ト有所謂流連ト光景ト誨ト淫ト教ト偷ト之ト景ト哉ト烏乎ト等ト是ト兒戲ト

物水中少磷緇吾於式部泉亦云於是乎又各自記姓名於詩端以做同會之目錄且為後遊之手摹是壬辰之歲雜賓之月某支干也余時偶為遊首特賦以奉句其詩曰

山鐘神秀出丹泉築紫翻嫌意近濃廣校全循從地勢淺深不用補天功一堆雲氣蒸生石幾點雨聲敲起風賞現無冬又無夏春有暮春衣豈獨自推方童

其二

靜深有本是淵泉去却來趣如濃林聲已添醒眼興塵埃當著洗心功清通寒多廓太虛目涼壓炎火熱三伏風比月起予者誰也過此庭恒見與子詩童

其三

一竅幽潭式部泉遠看能淡近能濃淪荒幾度事朝汲煎藥將猶試晚切浮去飛花兼落葉引來明月與清風乘閑好樂幸為老菟里累々半是童

其四

式部名稱流入泉蕭條異代感逾濃九重帝閔綺羅色廿六仙臺歌頌切水觀王章輝李世四羅嗟

翠黛向悲風經過却似山陽跡隔隴悠々吹
笛童

其五

覩物思人式部泉無情遊共有情濃清音盈耳懷琴
德澄影窺形憶鏡初曉浮松樹雨出香腕度花風一歡十
載即知已莫道無端見被童

其六

景帝宮佳式部泉乃人利用復方濃既知酒後折醒力更
見茶前止渴功既訖老豐無待雨納涼遊客不期風十
秋自是春源水河伯何殊羨海童

其七

品味休論幾泉竭來一酌使知濃清虛無物然大
性流動有機上善功臨眺渾同郭德華德論誰逐子陵
風却思忽南辭山去復見紛々世路童

其八

優駕吾遊式部泉無窮光采箇中濃盈料不息千年遊過險
果亨萬里功聖者首時嘗取水吾儕今日又信風洒然猶記
仲尼意與

其九

青滿峯巒綠滿泉物華喜入甚惟濃隨時好受一時樂

蓋世能成幾世功南陌草荒牛上龍北原日浴鳥呼風牧羊者
取眼前何況又如今頭已童

其十

慵尋梓澤及平泉來問清溪一派濃木怕博珠難保
愛虛謀攬石遠支地幾何人壽黃河水竭江聲亦壁風物
興民胞聖門根同遊牧又文相童

其十一

偶拋城市把雲泉入千杉光華之濃南澗時聞鐘磬名剎音車
皐日身釋錮劫旬懲雨晴新樹萬古青山含素風物
外忘年似水澹忘年似水澹然白髮對童童

其十二

不須洗耳向清泉聽我數詩狂語濃知足始知天
爵貴得閑即得地行功唐虞雖聖去前代卻
曾想誰還古風有暇君惟來逝濯靈莫宿內
下童

清興八入夜又賦一章

興追清夜涌如白水綠蟻傳杯琥珀濃且喜眼前會
安知曉外小名功天開梅子黃時雨人倚桂花白處風身
裡逢吾固有不求東海見青童

同和

宜中

不羨滄浪式部 泉水容每向韻人 濃且石通流應藝
既削山成道有新 功草上開延臻 夕自松陰曳杖嘯涼風
坐汲清寒燒落葉 且令新課見童

正活

谷御音山雁式部 泉蓄之蔓草露濃之清新 忽見詩無敵佳
興更催酒有 功密之老松遮晚日 倚之修竹引涼風 白雲深處
長笛定識溪邊一牧童

道思

來尋源水帝京 容巧之枕決流石乳濃 多病長悲忙世故 中
賜一洗費詩功 鳥還半落峰頭月 波動上生木末風 歸路

悠々無限意 杜鵑枝上樹 童

網英

燕尾蜂腰山 又泉無道 景象山屏隈 濃未流灌引十時 潤客骨
黎閣造化功 絕聲涼忘伏 婁水聲寒冽 動搖風賞心 欲入聖
門會 慙愧難單五尺童

白貴

當時式部今何有 石埭寒泉一味濃 松下曲阮瓢樂飲 閑心
潤吻岩榴 功明珠澤沸 正還浦素縑 絲系紆欲 繫系風好
漱白雲 探月窟 鹿中領得與 山童

景原

探幽夏日到林泉 山色蒼蒼水色濃 自漱寒汀酒力

俱對清冷得茶功惟疑消滴雜琴韻最愛微涼生岸
風觀物終朝養真性黃昏棧杖倚兒童

親次

一脉耳泉名式部花顏柳髮靚粧濃清冷何用隱之醜
滑出不知廣利功放步遊山還玩水閑吟弄月且朝風鷓鴣
犬吠非人世復見仙翁化兒童

堅祐

西林鹿前頭式部泉之源咸甯湍末流濃兩山圍出琉璃色數
處寫看圖昼功竹日影中消復曰松聲外喚秋風人生一
月幾回笑遙想解言在惠童

正達

晨向鑑空式部白水雲容水態共濃來貪日夜窮烟景
免見市朝競世功溪澗四時入呂律炎天月引霜風人間樂土
眼前在仙路休尋牧馬童

堅的

遊行幾卷式部泉依石思濃人朝暮餘許料豪谷春秋
貪酒功松老有唯為雨露苔清無復起鹿風不堪吟新回首
斤針陽照雨童

堅益

怪巖峭壁青松柏式部泉清移影濃流小楫教煩暑退

樹高有引早涼切殘雲歸盡山嶺月絨月吹晴雨變風
右見尤看景無限水嬉幾度伴子童

玄侏

曾聽令君式部泉何人大手使濃常尋勝地哦詩賦又穿
坑岩競異功佳木蒼之多古處脩篁裏之來南風攸然
幸遇先生會我亦儒門一小童

實冬

式部泉頭閑雅席緩談閑語水流濃山岩漸之童青
色雲雨決之貴春不識失明炎其節也奇淨綠石林風
一時還見千年樂万慮解除似孺童

五童

玄說

冷水溶之式部泉之頭綠樹影濃之白砂閑步耐成趣
一黃酒共斟應詔切山上下穴觀東海月溪間徐至北林風此時
子坐終日嘗雨洒猶看雨聖童

堅哲

餘初音洋之式部泉天光雲影四時濃山中坐石消火熱世外
出塵忘利切激水乍飛將作露新林已動也生風賞心
樂事常難遇高會似吾總角童

童夏

莫言守方外無人境式部泉頭景色濃槃石振崖松

その是より上流ありしはた信濃の所ありぬにわ
かるとりてす訓、ゆへ他處にせん年二十の
山所ありしとや他處に今此信に之し
後より何と他して初列及いさ乃亦とせ
親長かゝるに棺を用さく人並に死者をさく
いしなしくありしは是よりすをさくゆえ
此を考し信より
日本記七系汗 天皇條下云

日本武尊守東還^{ニシテ}於尾花^ニ即^テ尾花氏之宮^ニ黃^ニ嬪^ニ而
淹留^シ踰^リ月^ヲ於^テ足^ヲ聞^キ迫^リ亡^ク神^ニ化^ス去^リ肥^前高^道之^日本^武尊
乃^チ不^レ知^リ主^神化^之之^謂足^大蛇^必荒^神之^使也^既得^殺主^神去^リ
使者^當足^水平^因野^蛇指^行時^神之^興雲^水露^谷體^無
復^可汗^之路^乃捷^直不^知其^所跡^所然^後露^裕強^行方^僅得^出
出^猶夫^意如^醉因^指下^之泉^側乃^飲其^水而^醒之^故
早^其泉^曰指^解也^日本^武尊^於是^始有^病然^稱起^之
還^於尾^張矣^不入^宮黃^嬪之^家使^移居^於尾^張而^到尾^張昔^日
本^武尊^向東^之歲^停尾^張而^進食^是時^解一^飯置^於松
下^遂忘^之而^去今^言於^此飯^猶存^故歌^曰烏^波利^耳多^院

珥露伽帶流比若克麻克阿波例比華克麻克比若珥
阿利執磨沙農波地麻多知波因麻多
逮于能廢野而痛甚則以新俘叛夷等獻於
神宮因遣古備武乃妻之於天皇曰臣受命天朝
遠涉東夷則彼神恩賴皇威而叛者伏罪荒神自調足
以卷甲戮之惶惶還冀昌日昌時漢命天朝然天命忽至
際跼難停是以杜野無離洛之宜情身已唯然不
而明于能廢野時年于天皇聞之寢不安席食不甘味晝
夜候咽泣悲標梓因以大歎之曰我子也雄王有然能移之
日未及極角久煩征伐既而恒在左右補朕不及然東

夷騷動勿使討者思愛以入賊境一日之無不顧是以朝
夕進退停待還日何福乎何罪乎不意之間汝我子
自今以後與誰人之經給鳴業邪即詔牽御命而奏
仍葬於伊流小能廢野時日本武尊化白鳥從陸奥之
垢倭國而飛之群臣等因以開其棺擲而視之明衣空留而
屍骨無之於是遣使者追尋白鳥則停於倭珠彈
原仍於其處造陵焉白鳥更飛至河內留舊布邑亦其處
作陵故時人号是三陵曰白鳥陵遂高翔上天徒葬衣冠
因欲領而名即定其部也是歲天皇踐祚四十二年孝同
記景行天皇五十二年秋八月丁卯朔天皇詔群卿之朕願

愛子何日止平魯欲巡狩雄王所亦之玉是月未與幸修飾
轉東海冬十月至上德國從海路渡淡水門是時聞覺賀
身之聲欲見其鳥飛尋而出海中仍得白蛤於是賜進
祖名盤鹿之鷹以蒲為子繼白蛤為贈而進之故美之鷹臣
之功而賜膳大伴部十二月從東國還之居浮橋也是謂
銚宮

十又町禮をほこに所砂村と云りの天白王行幸此村禁庭此
砂城よりうへ心好とあり又うへを山と云々天白王此所衣衣織た
は山と云世世以由葉口よりと云水等詩人ありて云
遊溝野望戸津戸津は諸謂尾津次大倭建尊行幸処と云今無尾津ト云也

昔聞美曾之乃濱
山頭老樹十年色
行幸之傳倭建命
只愧名跡同塵土

今看渺々膏腴田
竹程民家万竈烟
詠歌猶遺尾津前
墨客強人不賞情

八劔宮 在溝野

省倭建命東征時至尾津志御劔美凱旋後劔不矣
在之命憐之有詠歌尔後山明御云載在日本記然則
劔宮ハ祭尊ヲ御劔歟
首曰武尊有事東ヒカシ軍東至久悉ク平夷
歸來一旦登仙云千載猶殘八劔宮

神名帳は神社なり

古觀音と云ゆり多岐行り足之行文此いさ先より
伐之家一今此飲音をば中々云海北村此里を
目む武つるれ子孫とて今此處に御藏志馬と云と
考げ所は此れ此所云人の心之ふ此れ後世に
者なりとれ子孫と云

一野代村常名なり野代志呂社社名

天照大神 孝仁天皇十四年乙未九月朔日張國中

此れより一歩路乃國常名乃野代の系近き

昔より一歩路乃國常名乃野代の系近き

神祇首

葦原生野代村常名なりと云嶋人よりこころ

甚及田元長

一長嶋 高一万四千五百五十六石余之城と 松平好馬

此處に居り境より川市境に流此海より此れを

里國より新やと云

信長初長治發向事

永祿十一年壬辰九月織田信長公行發國志と云
むかし能川左衛門將監大和より一軍と云一向家
能川より一軍と云一軍と云一軍と云

糸赤尾糸赤尾

糸鳩田志知内

糸東村志知内

糸芳賀澤ハルカサ

糸穴太アヲ

糸中上ナカミ

糸長深ナガフカ

糸六把野新田ロクハノ

糸北大社フクノ

糸金井メウノ

糸坂井

糸志知

糸星川

糸五反田

糸世古泉ナカミ

糸比村長深内

糸西森

糸北山田

糸南大社

糸南大社

糸友村

糸山城シノヤマ

糸本林忠モリノ

糸筑紫ツクシ

糸山田

糸田邊クナ

糸一色長塗内

糸八幡新田

糸梅戸ウメノ

糸大井田

糸一色

糸金井

糸宇野木

糸平塚

糸宇賀新田石橋内

糸行極丹生川内

糸上新庄治田内

糸林鹿治田内

糸別名治田内

糸笠間梅ノ

糸大木

糸大白水新田

糸御園

糸上笠田石橋内

糸下村石橋内

糸南村丹生川内

糸下新庄治田内

糸中山治田内

糸奥村治田内

糸門前梅ノ

糸大泉

糸楚之原ツハラ

糸下笠田

糸高柳石橋内

糸東村石橋内

糸北村石橋内

糸久保治田内

糸東友治田内

糸是戸治田内

親^{治田内}麻生田

親新町

親^{治田}治田

親義鹿

親具原

親古野

親北中津原

親市野原

親南貝野

親西具野

親鼓村

親^{アケ}阿下喜

親下平

親飯倉

親^{ナツハラ}南中津原

親石川

親下相馬

親瀨木

親西野尻

親東前寺

親東野尻

親永尾

親河合

親^ナ内

親古原一色

親白平

親^カ畑毛

親鹽崎

親二ノ湖

親^タ田邊

親川原

親上相馬

親^コ米野

親^{白瀬内}本知

親上山田

親^{白瀬内}市場

親^{白瀬内}山口

親大具戸

親^{白瀬内}坂本

親^{ロシ}清司原

親篠立

親^コ古田

ノ百村

高四万三千九百二十三石六斗五升三合

二万二千六百六十二石五斗七合 田方

一万二千六百六十一石一斗四升六合 田方

外高九千五百三石八斗四合

一古田村より懐州土岐村へ山越行程二里

一 穴あな志し山やま多た須す弁べん 幸さい名な西せい行ぎやう禮らい二に里り左さ村むら本ほん之の
 十じゅう千せん觀くわん音おん住ぢゆう須す禮らい所しよ二に九く卷まき目め也なり
 一 田でん邊へん村むら延えん喜ぎ式しき神かみ名な帳ぢやう言ごん宗そう用よう社しゃ者しや
 一 山さん深しん村むら延えん喜ぎ式しき神かみ名な帳ぢやう言ごん宗そう用よう社しゃ者しや
 一 名な帳ぢやう言ごん宗そう用よう社しゃ者しや

朝明郡

東北福崎 東南福崎 東豊田一色 東小向
 東富新田 東繩生

東柳村 東高松 東天賀源加
 東富田一色 東松原 東豊田
 東時田 東松寺 東西富田
 東東富田 東北村 東茂福
 東須賀 東羽津 東八幡
 東新家 東別名 東鶴村
 東吉沢 東下宮 東川北
 東山知 東廣永 東山村
 東埋繩 東千代田 東平津
 東伊坂 東菅宜生 東中村

一 鹿嶋山引橋寺里はらきあり千の観音浮城の鹿嶋
札所也五番目也

齊尔分りる屋敷家不吉物く向ふ物は此家也

一 久國山親有る 中なる土而設き作佛也此札所二十

六番目也

齊尔 物ましく家此家也谷川の方より多く是の物也

一 鶴村 行住ちりる 延喜或神名焼十位なる我神社

と云ふ又云雄鳩文

一 富田村 行住ちりる 湯より一町遠はらす此海老名

物あり

柳城改築

一 柳城 一里南 弘治三丁酉年春小倉三河守三善康

少将乃取れぬ神あり乃柳の地柳城と改と云ふ

世守柳の地は古くは長良川神名也

此中柳元日又三郎父子謀叛して神あり乃柳改築小倉

三河守引是くりりあり又は柳なるは古くは

と云ふ柳なるは古くは鬼井名乃柳の地をいふ

従ふに従ふは古くは世守國の地也

小倉の地は柳の地也

此の地は柳の地也

此より君長乃義と一しつゝいふる作はる忽よとの正り
家来此古市六七されうるとさ

三重郡 又順和名小道并

公四日市

公瀨田

公瀨一色

公未永

公阿舍川

公西阿舍川

公小杉

公野田

公東生糸

公西生糸

津山一色

津東坂部

丹羽西坂部

下海老系

津上海系

津尾午

津高井

津高角

津寺方

津西野

津平尾

津赤水

津江村

津下鶴川系

公川北

津上鶴川系

公北野

津黒田

津吉澤

津池底

津潤田

公立首羽

津櫻一色

津知積

津休倉

津福村

津木林

津神田

津中茂野

津宿野

津東茂

津山ノ坊

津西茂野

津谷村

津千草

津水澤

津堂ヶ山

津六名

津小山田

津小山

津川嶋

津小生
津大井平
津井舎

津久保田
公堀木
公柴田

津中河原
公赤堀
津松本

津東日野
宋西日野
宋室山

宋八王寺
龜羽木
龜具家

龜北小松
龜南少松
古市場

親宋女
公六呂見
公追金

公内堀
公鹽濱
公馳出

親木郷
堀川原田
親小治田

親北五味塚
親北色
親小倉

親南五味塚
親南川
親小倉

八十九村
高立乃五十七百七十三石五斗七升四合

内ニヶ村一所有
四一乃七千八百三十九石六斗八升九合

外高九千八百二十六石二斗六升二合
内 七千九百四十二石八斗八升八合

一 小草村より白洲根牟村への山越二里十七所余十草

越より七又上津畑より云

一 厚地村より白洲大川原村の及より山北南根より

一 有汗一程五里

一 山之房村より所ざらに村への迄道は此より有
汗一程四里 水澤一程と云

一 遠介 東海道と伊勢の海道の衢や往還二四の心所

一 四日市 東海道の宿を也 或は合之る所奈は二所

和と遠隔や大船五町程伸よかゝる大のふかゝる政市日

毎月之每四日九日十四日十九日廿四日亦九日四日ヨリ

神よりゆくヨリと云

道春 葵末紀汗 四日市場人々起處之高買相共過

交野 漆得一日多の廊中忠作公起露

一 曾井村 四日市川上一里半村前 清泉有昔昔井より

一 和泉式部 吾谷 願之 藤原 氏 知りて

也 井水より依り村号と侍よりと云

一 神陀 樂山 觀音寺 日永村 六日見 二三四足公鳥 トリあり

一 岡山 良忠上人 傳通記と俗姓あり 京所 堂は岡白

八代の大葉之宰相 定孫山 伊丹 實子也 性善 勤往

銀七十貫ありと 乱賊のあふ 揮領せし 色也と云 依り

傍侶 頼大の 時帝 命信長 而後せし 其有 論旨

勸修寺 亞相 奉之 信長 公 後 後 不 似 之 一 其 照 燈 以 終

臨 没 幸 名 傍 侶 因 人 而 訖 其 門 表 亡 訖 今 領 之 名

と云

一 高角山 大日寺 四ノ市より西 寺方村并有此寺天余

此座佛 大日如来也 像昔ハ飲麻那國并村にあり

之以鐘舎室列上居此等一亦くは列大日浦より海

三堂形位修けく之岸方流平ハ執つ回より寺名ハ

ありりり付國并此徒も室列乃ハ魯を覆て流けり

件此後卒素より死来しハ魯徒悉散乱して

地矣り室列横ぬよた魯西并此中ハ燒却也

しハ中より大日とハ林出し一寺方村ハ福一寺名

振出ぬとありしハ移りて建立ありしハ古野原寺方

世之ハ村と寺名ハ室列ハ如ハ律宗乃ハ法院勒所

きよハ明り成つりハ又凶風屢川一登立乱の如佛國寺領

又破成しそりりやと今ハ終り同四方ハ萱葎此

内ハ聖一法ハいと修しとありり也

一金徳山 法光院 四ノ市より西 寺方村ハ本寺ハ主師

如來也 法光の語ハ他並修けり寺領とありしハ

以りり通修しりりやとハ萱葎乃ハ藝あり一天台乃

貧法にせり

一 景楊山 本國寺 四ノ市より西 日野村ハ古ハ高

千石余ありしハ寺院莊嚴ありしハ

通修しりりやとハ萱葎乃ハ藝あり

務州三章郡西日野縣景楊山安國緣起曰古之國寺初
 為聖道之次而號西明寺其過有山名五位鳥山其樹
 樓而腦國民之安能野村以哀斯之應障化童子子
 大札并銅鐘於虎關虎關持大札并銅鐘來至當國
 而留居東日野縣今學寺都而本寺五位鳥山應障
 亦止矣其取西明寺住持馬師鍊於伽藍去于龜山
 之東和回縣取師鍊改西明寺號神護寺十曆應二
 天建立一寺之次勅號安國寺則東日野縣本覺
 寺其山堂是也寺景模東福禪寺舊跡猶塔頭
 十有三鎮守者能野權現也然休信長天家臣

滝川某住取移於尾州天正七號見寺ト云
弟也

- 一 宋女村 神名長橋岸神社 日比宮と云あり
- 一 福村 伊勢三郎義盛やーと云あり
- 一 川清村 西福と云あり 廿必三郎義盛名塔あり
義盛名号一と古外お汁のち領方と云
- 一 三重川原 小原より宇市出る川と云ん
古奇物中之主れは赤れと云にありありと云はれ
 佐木
 五子原
- 一 千草村 河内市あり西
千草は古物多量此乃丸山

流石に虎伏鬼文田の痛を始りしてさうなふりし一属のさ
まふのさるものさ日よりのしりなふのさりし金銭
る中よりさうさ式母さる乃者大に中さる雲梯院
出ぬるさる生れ不細りさる老馬射分部さる老馬射
動さる及中辰のさるさ川に口通さるさ五千余人のさ
乃唐浦より船さるりさる位唐村く押さる人捕さるる右
せじと儀さるりさるさ実さるさる種精さるさ伏さるおれさ
為此さるさるさ乃老初さるりさるる市に國さる此老さる
さるさささささささささささささささささささささ
田章さるりさる討負強死のさるささ船さる此京川通さる

- 一 是より國より海國勢と震さる
- 一 高岩 四日市此南高岩の家居此北此をさるさ
- 一 此高岩の位儀さる
- 一 今乃高岩の家神樂さる乃さるささささささささ
- 一 味さるりさる水原の中以南信路此此此此此此此此此此
- 一 野さる河を洋さる忠さる下高岩の地此此此此此此此此
- 一 家つ族乃剛さる武威とさるりさる此此此此此此此此
- 一 改さるりさる年さるりさるささささささささささささ
- 一 さるりさる
- 一 さるりさる

又或時長野の政り各名を改りて其の部軍の事あり
各名乃度乃内此之文字より世の事と別れまじ
可相分ハ部連方此部此政りてしゆん

信雄厚野城土方河内守給り

一 厚野 厚領主土方重師土方重師の事なり

天正十一 癸卯年春 越前 役所此城にあり

由り 雄は 信雄公より 給と云

一 小古村 神事あり 延喜式 祓名帳に 許名神社とあり

一 西坂 西村 神事あり 春日大社の祓名延喜式 祓名帳に

江田神社とあり是也

一 神前神社 高角村此内かんと云村あり
天皇あり

一 廣く見れば...
一 天竺...
一 海...
一 伊...
一 伊...

